

学校だより

第3号

いつも心にあいうえお

令和6年9月 1日(日)

発行：那覇尚学院

高等専修学校

文責：初鹿野 修

教育課程を考える

新しい学校として、教育課程を充実させるのは重要なことだと考えている。まずは、生徒の実態をしっかり踏まえたうえで適切な教育課程を編成する必要がある。本校は1年目として、まだ見ぬ生徒を想定し、教育課程を編成し現在は、それを実施している。PDCAサイクルで考えると、1年の経過をみて次年度の教育課程を考えるのであるが、今は小回りがきくことをフル活用し、学びの充実に努めている。

教育課程とは？：本校の教育創造プラン（教育計画） IV 学校運営と教育課程を参照

学校は、3つのことを期待されていると思います

①「命」を守ること ②「可能性」を開くこと ③「夢と希望」を育むこと
この3つのことを実現するための具体的な営みが「教育課程の編成と実施」です。教育課程とは何か？「授業時数」のことでしょうか？それだけではありません。

教育課程とは：学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を生徒の心身の発達に結び授業時数との関連において、総合的に組織した学校の教育計画です。

「あたりまえ」「あたりまえ」のことを改めて考え、「あたりまえ」に感謝する

次の詩は、「飛鳥へ、そしてまだ見ぬ子へ」（井村和清氏作）に載っていたものです。

あたりまえ

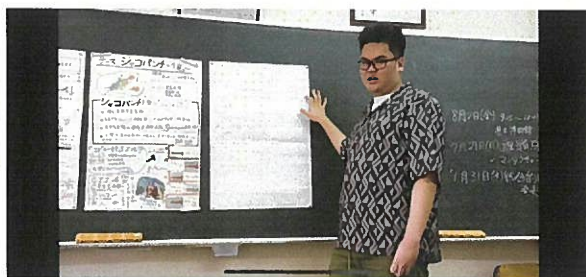
こんなすばらしいことを、みんななぜよるこばないのでしょうか。
あたりまえであることを お父さんがいる お母さんがいる
手が二本あって 足が二本ある 行きたいところへ自分で歩いてゆける
手をのばせばなんでもとれる 音が聞こえて声が出る
こんなしあわせはあるのでしょうか しかし、だれもそれをよるこばない
あたりまえだ、と笑っています
食事がたべられる 夜になるとちゃんと眠れ、そして又朝がくる
空気をむねいっばいすえる 笑える、泣ける、叫ぶことができる
走りまわられる こんなあたりまえのこと
こんなすばらしいことを、みんなは決してよるこばない
そのありがたさを知っているのは、それを失くした人たちだけ
なぜでしょう あたりまえ

私たちの身の回りのことを見るにつけ「あたりまえ」と感じ取っていることがたくさんあります。この世に生を受けた自分自身のこと。太陽の光、水、空気といった自然の恵み。有り余っている食品やその他の物質。それに友だち、家族と。例えば、夜になると家族が集まります。いつもいつも同じことの繰り返しで、明日も明後日もそれが続くかのように思っていますが、いつか集まれなくなることが必ずあります。いうなれば、「またとあり得ない会い方であっている」のかもしれない。「あたりまえ」のことが本当にあたりまえのことなのかを考え、「あたりまえ」のことに感謝の目を向けて見ることも意義あることだと思います。

本校生徒の現在の状況

授業日数	1学期 72日
出席状況	出席 63 遅刻 53
	出停 2
	欠席 7
	理由有 3 理由無 4
出席率	90%

総合的な探求の時間：シャコパンチ



「A君の研究」

おもしろい世界に引き込まれました
食べたことはあっても調べたことはなく、シャコの多面性を教師も知ることが出来ました



指定課題研究②
モウリーニョ



サッカーの世界では有名！
このことも知らない世界でこ
こにも学びがありました。